

シルバーだより明石

# 銀の巻

## 正会員数

1,122人

男 761人

女 361人

(平成22年10月1日現在)



『秋祭りを待つ稻爪さん』写真提供：坂本 正子

【発行】(社)明石市シルバー人材センター

〒673-0026 明石市船上町5-2

TEL (078) 922-5000 FAX (078) 922-5040

URL <http://www.sjc.ne.jp/akasi/>

【企画・編集】広報・編集部

# 理事長に聞く！ その3



※ お忙しい中をお邪魔致します。今回で3度目の取材をさせていただく訳ですが、今回は平成22年度の代表的事業並びに次年度へ繋げるご計画中の課題などについて、総括的にお話を伺いたいと思います。

先ず現在進められている緊急テーマとしては地域班の立ち上げということになるのでしょうか？

そのとおりです。「地域班の立ち上げ」はシルバー（社団法人）の基本理念である自主・自立・共働・共助が本格的に機能する為のインフラとも言えますし、組織力のバロメーターですから、現場では細かい困難があるようですが、それを乗り越え、早い立ち上げが喫緊の課題です。

※ ところで、救急隊はまだ発隊してやっと一年ですが、この事業は各所で反響を呼んでいるとかがっていますがいかがでしょう？

「シルバー救急隊」もいろいろ試行錯誤を重ねながら、ぼちぼち軌道に乗っています。先の地域班の機能と直接連携する事業の一つとも言えます。一例をあげますと救急隊の仕事内容が近頃は住宅用火災警報器取付けの注文が増加傾向にあり、この地域班の機能をフルに活用してより充実を図りたいと考えています。

※ 会員組織の充実と活性化を図る手段として、同好会の立ち上げを進めてこられましたが？

既に二つの同好会（ぶらりウォッキングサークル、囲碁・将棋サークル）は完全に軌道に乗っていますし、今後年内には、手芸、工芸、カラオケサークルなど順次立ち上げたいと考えています。就労とは離れた横割りの新たな相互人脈を育成しながら生き生き組織の醸成や組織的結束力を高めていく目的です。

※ 次に現下の社会環境や経済情勢の悪化で事業運営の維持にご苦労は絶えないと推察しますが？

シルバー事業の根幹を成す事業収入増に向

東森理事長ご就任以来一年半が経過しました。過去の節目に理事長の運営方針や所信などを広くご紹介してまいりましたが、今回はひと区切りの総集編として第三弾をお送りします。

(インタビュアー・まとめ 広報部 荒川、写真 同 坂本)

た各種の取組みも継続しています。新たな就業先の開拓（事業所訪問）、従来のお得意様との連携強化や就労増員のチャンスを模索、一般家庭へのPRなど職員はもとより新規開拓員の採用（コーディネーター1名に加え3人新規増員で合計4名）で事業所挙げて絶えざる努力を傾注しています。

※ その他では？

やや次元の異なるテーマですが、新公益法人法の施行に伴い当センターの公益社団移行に向けて実務は着々と進んでおります。これも大事業の一つです。

※ 次に今後に向けて重点をおかれている計画中の課題などをご披露下さい。

先ず理事会組織の充実強化でしょう。もう既に青写真は描けています。端的に言えば、理事会を委員会・部会など目的別に組織化を図り機能強化を図ることです。二つには、事務局内部体制の強化です。既に新たな職員の補充（来年度の新入などを含め）など、大きな変化が既に始まっています。職員それぞれの資質の向上、職場風土の改善を目指します。三つには新たな事業への展開を目指します。大掴みに言えば、3～4年前までは新しい事業を志向する必要性が低かった訳ですが、今日、社会環境の急激な変化（高齢化社会など）に適応した事業（例えば、生活援助、介護、子育て支援）への積極的な取組みを行うことが大切だと思います。これらは主に女性会員の仕事になりますので、女性会員の入会を呼びかけなければなりません。四つには、記念事業実施に向けた取組みがあります。

既に30周年記念事業に携わる準備委員会も結成されて、部会別活動は始まっておりますが、30周年の節目の大事業ですからこれから地道で着実な活動が期待されます。 (完)

長時間にわたってありがとうございました。これからも益々のご健闘を祈念申し上げます。

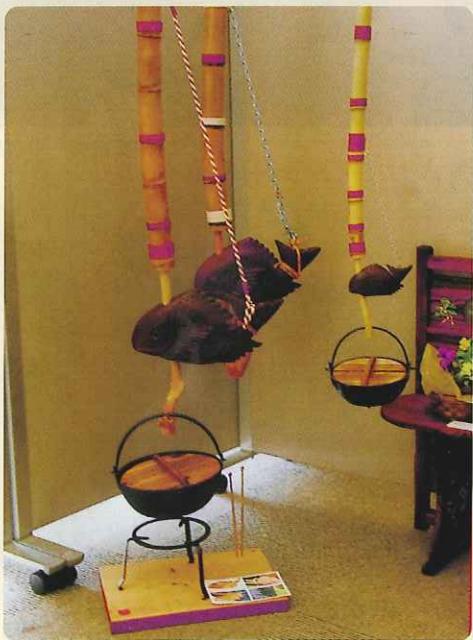
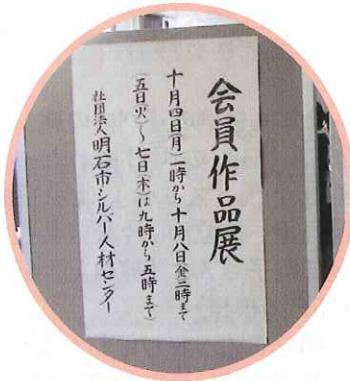
## 様々な活動の記録 1

a l a c a r t e

### 『シルバー会員作品展示会』開催さる!!

従来の事務所内常設展示場（センター事務所内一階エントランス）から飛び出し、今般、当センター始まって以来、初の会員作品展を、明石市役所2階ロビーにて10月4日～10月8日の5日間開催されました。その模様をお伝えします。

出品者総数28名、総出品数70点以上と、会員さんの日頃の力作が会場狭しと咲き乱れ、訪れる参観者から「これらの即売はしないのですか？」と編者も何度も尋ねられ一般の関心、興味の深さを感じました。



## 様々な活動の記録 2

a l a c a r t e

### 会員日帰り親睦旅行

今年も恒例の『バスの旅』は去る9月25日（土）・26日（日）の両日にわたって、会員総勢313名を乗せた「バス9台」は明石海峡大橋・鳴門大橋・徳島道へ旅立つ。今般は会員で魚住町にお住まいの岡部照子さんに「旅日記」を綴っていただきました。（25日の模様）

朝夕もめっきり涼しくなりました。車窓から見える野山の装いにも秋の気配が感じられます。先ず最初の目的地、「うだつの町並み」の散策、脇町はうだつ町家の妻壁の横に張り出した袖壁（写真下）で、それが防火の役目をしていることを知り、「昔の人はよく考えたな」と感心。又、うだつの壁は相当費用がかかるので、金持にならなければ設けることが出来ません。その意味で「うだつ」が上がると言うのは裕福の象徴で、当時の繁栄を物語っているそうです。



お昼の食事は「徳島グランドホテル」にて思わず舌鼓を打つ美味しさに満足、満足（写真右上）。昼食後に「大塚国際美術館」の見学。そこで目にしたイタリアンスティーナ礼拝堂は、一瞬目が点になるほど、素晴らしいものでした。おしゃれな香りいっぱいの“パルシェ香りの館”で友達や孫達にそれぞれお土産を買い求めました。



復路のバスが大変！私は初めてのカラオケ車（4号車）でしたから、出発から解散まで終始ノリノリ、カラオケ好きの私もその恐るべきパワーに圧倒されながらも一緒に負けじと熱唱。楽しく過ごしました。

この日の5台のバスの参加者全員、何事もなく無事に帰ってくることができました。毎回このような貴重な体験をさせていただき、本当に嬉しい限りです。又来年も是非参加したいと思っています。（完）



（写真提供 事務局）

## 刈払機取扱講習会

去る7月28日、当センター主催による表題の講習会が開催されました。講師には例会どおり日立工機㈱研修所長、高橋雅徳氏及び日立特約店リーダー藤尾慎也氏などに参加願いました。

受講側、当センター安全委員会委員長、佐久間さんをはじめ合計12名でした。



座学研修風景



林崎漁港ふれあいゾーン一角で  
屋外実習

## 会員ふれあい広場

### 『センターと共に歩んで』(6)

今回は魚住町長坂寺（地域班：魚住小校区）にお住まいの高浪源一さんをご紹介します。

H13年に入会され、いまや我がセンターが誇る植木剪定の第一人者。

「高浪さん、近頃はちょっと働きすぎではありませんか？」といきなり不躾な質問を投げかけましたら、「実はそうなんです。時節柄大忙しの毎日です」

Q. 「センターに入会される以前も植木屋さん？」

A. いや、瓦ふき職人です。神戸の御影で親方につき修行しました。

その親方というのが、お茶やお花を嗜む方で、はじめは「けったいな人やなア」と思っていたのですが、後になって、瓦をふくのも、後に修行した植木剪定にしても、これがセンス（感性）を磨くことだと学びました。

Q. 話が前後しますが、ご出身は神戸ですか？

A. 私は大分県です。若い頃、剣道に打ち込んでいました（剣道6段の腕前）、仕事を探して神戸に来ました。それから明石に移ってからも長い間、瓦ふき職人として働きました。



Q. センターでのお仕事はもっぱら植木剪定と聞いていますが、このお仕事の極意などお聞かせ下さい。

A. 先に言いましたとおり、いろいろなことに興味（関心）を持って感性を磨くこと、植木屋さんは神経細やかでなければ務まりませんが、大胆さも要求されます。

永い経験から言いますと、掃除（後始末）の上手い人は必ず仕事が上手い。

Q. 何かご趣味は？

A. 今は植木の仕事が趣味です。若い時代と違って名所旧跡、例えば日光東照宮のような荘厳できれいなところを見たいと思うようになりました。

やはりお仕事絡みのご趣味のようにお見受けしました。

最後に、今後ともセンターの植木班のリーダーとして豊富な知識・技能を広く伝道していただくようお願いしまして、結びといたします。ありがとうございました。

（インタビュー・写真 坂本）

## 「トピックスから」 戦後最も暑い夏

思えば、もうすっかり我々の脳裏から忘れ去られようとしている今年の夏の猛暑、気象庁は今年の『夏』を戦後最も暑い夏と報じた。

余談ながら、我々世代では、こんな表現には違和感はないが、若者にとっては、それは「いつからの事？」と感じたに違いない。さて、気象庁の解析によれば、各地の平均気温が地域別データを取り始めた1946年以降最高となったと報じた。確かにこの夏、TV、ラジオ、新聞とあらゆるメディアで連日の様にこのニュースを取り上げ、一種の社会現象化した「スーパー猛暑」がデータとしても裏付けられたわけです。

総務省消防庁の集計によれば今年6月から9月15日までに、熱中症の発症で医療機関に搬送された件数は5万4千人を超える（症状的には様々だが）、年齢別では65歳以上が47%を占めていたと言われ

ます。

明石市内での細かいデータは未公表（9月末時点）だが、当センターでも屋内外の就労者は多く、6月の上旬に熱中症予防・対策に関してチラシ等で会員の皆様に呼びかけ、更に今年の異常猛暑に反応して8月時点で重ねて注意報を発令する等各種対策を続けました。事務局では、振り返って「会員各位が事前予防を怠ることなく、また就労時に万全を期すなど、関係各位の細やかな注意が生かされ、幸い、海岸清掃に携わった就業者の軽微な被災にとどまり、大過に至らなかったことは、まさに幸いでした」と長尾次長はコメントされていました。

会員の皆様、夏の疲れをすっかり癒され、来るべく寒い冬の到来に備えていただきますように。

（広報部）

# 同好会(サークル)活動報告

## ① ぶらりウォッチングサークル

会長 東 啓二さん報告



第4回活動は9月18日(土)、参加者29名(今回初参加11名)のもとでJR明石→大蔵海岸→JR朝霧のコースで実施。暑さも一段落、明石駅から魚の棚(うおんたな)商店街を抜け中崎公会堂(相生町)へ歩を進めました。同公会堂は来年で築後100年を迎える奈良、鎌倉様式を取り入れた荘厳で重厚な建物で一同改めて感心しきり。市役所(市民会館)まで戻り、海岸を違うフェリーを背に一同記念撮影(写真左)。この時間には日も高く汗ばむ陽気に、一同さわやかな潮風を求めて海岸線を散策、穏やかな海上を大きなタンカーが行き交う。交わす会話も大弾み。二度目の休憩ポイントでは皆さんの満面の笑みがカメラに吸い込まれるよう。笑いの絶えない明るさに満ちた29名の大所帯、大移動も終着駅、朝霧に到着。全行程2時間50分に及ぶ「ぶらりウォッチング」は終了しました。次回も楽しい活動にしたいと考えております。引き続き宜しくお願いします。

次回活動  
予 定

「紅葉ハイク」11月27日(土) JR朝霧駅(AM 8:30集合)～朝霧公園～松が丘公園～山電大蔵谷駅解散を予定しております。引き続きご参加お待ちしております。

## ② 囲碁・将棋サークル

会長 山田 耐さんからの報告とお願い



当同好会は発足して5ヶ月、当初15名の会員でスタートしました。お仕事をお持ちの方も多く、常時10名前後で例会を開催しております。(左の写真:一戦交えた後ののどかなひと時)

こんなのんびりした雰囲気の中で月一回、同好の士が一堂に集い楽しんでおります。ご承知のとおり、囲碁将棋は集中力と創造力を高め、同時に右脳の活性化につながると医学的に証明されています。又ボケ防止には最良のゲームだと思います。年季入ったベテランからズブの素人まで、

気軽にご加入をお勧めします。この誌上をお借りしまして、改めて募集させていただきます。

募集  
要項

- (A) 活動要領: 例会は毎月一回。原則として第3木曜日、時間12時～17時
- (B) 場所: シルバー・センター事務所 2F
- (C) 会費: 100円/月
- (D) 申し込み先: 山田 ☎ 922-9827 又はセンター事務局



## ③ 手芸サークル

先般来、一日も早い結成と旗揚げを目指して会員の勧誘を実施してきましたところ、10月初旬現在約11名の入会を確認しました。

正式に、センター内で公式サークルとして承認される為には最低10名の会員が必要です。この条件を既に満たしておりますので、去る10月6日(水)午前10時より、センター内会議室において会員総勢8名の出席のもとに立ち上げ会(設立総会)を開催しました。

議題など詳しい情報は追って報告致しますが、決定事項のみ前もってお知らせします。

初代会長 福田福美子 (大久保町 ☎ 947-2184)  
副会長 浦戸 和子 (人丸町 ☎ 914-0357)  
会計 安宅 勝子 (田町 ☎ 922-2758)

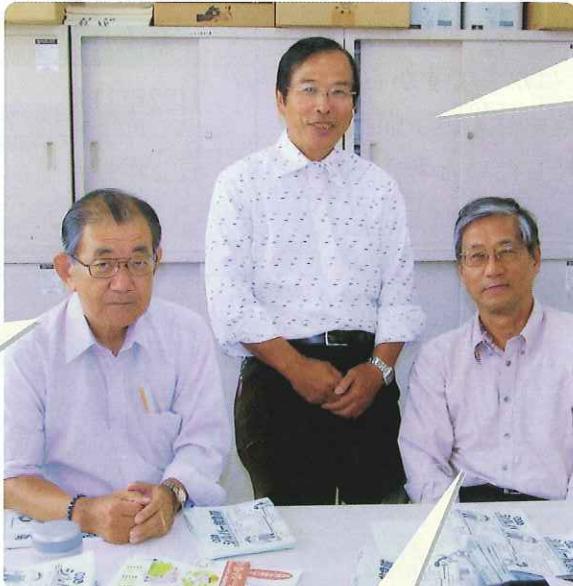


## H22年～H23年度 就業機会拡大推進員 3名着任

センターでは昨年に引き続き、本年9月よりセンターの事業多様化に呼応するPR活動や会員さんの就業先開拓に従事する専門員が三名新規に採用されました。組織構成としては、昨年来同専門員として一年間活躍された富貴澤 隆さんが組織のコーディネーターとして日常活動の取りまとめなど指導員として継続勤務されています。新任の3名を以下ご紹介します（順不同）。会員の皆様、センター事務所職員と同様宜しくお願いします。

### 北野 國雄 さん

お生まれは「北海道岩見沢市、冬は長く厳しい豪雪地帯です」学生時代は「憧れだった京都に住まいし経済学を学び、長い証券マンの生活が始まりました」「気が付いたら9回も転勤していました」仕事柄長い間鍛えた「フットワーク豊かな行動派」「高齢化社会の中で世の為、人の為、自分の健康の為もうひと頑張りしたいと思っています」



### 大坪 廣行 さん

ご出身は「九州、佐賀県」縁があって当地で有名な大手流通業界に就職、趣味は「柔道2段、少林寺拳法5段」の体育会系のつわものと思いや、心優しい九州男児「3兄弟で喧嘩もしたことがない」がご自慢。

初仕事で受けた印象、「一般家庭では若い世帯はシルバーの存在をあまり知らない、きめ細かいPRで小さな仕事でも吸い上げる努力が肝要」と早くも臨戦態勢。

### 近藤 甲一 さん

新任3名の中で唯一の地元（淡路）のご出身。技術系（工学部）の出身で神戸の大手企業でご活躍。技術系には珍しい（？）人懐っこい「人間大好き」人間。「老いてなお若く」をモットーに、「社会に少しでも貢献出来れば」と今の仕事に打ち込んでいます。趣味は「魚釣り」、「男の料理の腕はちょっとしたもの」と言われる。

### 広報から一言

厳しい世相の中でご苦労も多いかと思いますが、皆様のご健闘を応援しております。

随分むかし、仕事で駐在したボストン市街地の古いステーキハウスでの話、昔から肉食文化では肉は年をとること、熟成させることを「エイジング」と言い、よい保管状態でエイジ（年齢）を重ねることでより旨くなる、と言う。ただ、蛋白質が分解してアミノ酸に変化する訳だから、これは発酵とも腐敗とも言える。それが人間にとって有益な状態を発酵ととらえ、有害な変化を腐敗ととらえて食材を選別している、とマスターは得意顔で言う。

こんな事を思い出したついでにちょっと飛躍かと思うが、人間に当てはめたらどう言うことになるのか考えてみた。人間も生れ落ちた瞬間から老化が始まります。子供の成長を老化とは言わないが、人間の成長は明らかに老化と捉えることが出来ます。

ただ肉の食材のように腐敗寸前の食肉が最上級の食材だと言われるように、人間も上質のヴィンテージワインの様に歳を経るに従ってよりよく熟成したいものです。今、世の中の風潮では、老化防止（アンチエイジング）に熱心ですが、本当に大切なのは本物の熟成（エイジング）だと思います。ただ、ワインも保存が悪いと熟成がうまくいかず、劣化します。ご同輩!! 熟成と劣化も紙一重です。お互い、日頃の研鑽を忘れないようにしたいものです。

（広報・編集 荒川克博）



## 事務局からのお知らせ INFORMATION FROM CENTER OFFICE

### ※ 当センター設立30周年記念事業準備始まる

当シルバー人材センターは、来年度（H23年）に設立30周年を迎えます。

その節目にあたり当センターでは理事長・役員を含む総勢14名で、総力を結集し、記念式典の設営及び記念誌の編纂に向けて既に準備が始まっています。まだ手懸けたばかりですから、ここで詳しい内容はご披露できませんが、順次あらゆる情報網を通じお知らせしたいと考えております。

### ※ 当センター「地域班」設置準備中

予てから懸案の「地域班」の設置に向けて検討を進めております。ご承知のとおり、地域班設置は、会員相互の親睦を図り、結束を強化し、同時にセンター事務局と会員間の連携を強化することを目的としております。

これらは、現在発展過程にあります各種同好会活動と相俟って、組織的充実を目指しております。

現在、設置に向けて鋭意努力中ですから、今後、会員の皆様には継続的に情報を提供致します。

### ※ 配分金明細書の個人発送について

本年5月に会員の皆様にお届けしたシルバートピックスで「配分金明細書」発送を廃止する

予定とお伝えしましたが、まだ検討余地が残されておりますので、しばらく従来どおり継続します。ご承知下さい。

### ※ 配分金振込み日ご案内 (関係期間のみ)

就業月	振込月・日
H22年11月	H22年12月15日(水)
H22年12月	H23年1月20日(木)
H23年1月	H23年2月15日(火)

### ※ 平成22年度事業実績経過報告 (6月～8月)

●会員数 1,146人（8月末） (男：782人、女：364人)	●受注件数 1,014件 内訳 （累計） { 公共 14件 民間 1,000件
●就業実人 866人（8月末）	●契約金額 181,294千円 内訳 { 公共 44,257千円 民間 137,037千円
●就業率(%) 74.57%（8月末）	



平成21年度安全標語優秀作品 「危ないよ 止める勇気が 身を守る」 (作) 足立 均

### 編集後記 EDITOR'S POSTSCRIPT

- ★ 表紙の絵柄は、当編集部の坂本正子の作品です。明石東部在住の皆様ならよくご存知の稻爪神社を正面から撮影しました。題して「秋祭りを待つ稻爪さん」。
- ★ 本誌の『会員ふれあい広場』掲載用文芸作品（俳句、川柳、エッセイ、随筆など）が最近、手芸・工芸作品に比べご投稿記事がめっきり減少し、編集部ではやや寂しい思いをしています。ジャンルは問いません。新年号に向けて宜しく。

(広報・編集委員)